

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

「子どもに何を求めますか？」

年長児を対象とした「キッズクラブぐんぐん」の導入では、相手の話を聞く力や友達と協力して課題解決する力を身に付けることをねらい、クイズを出題してグループごとに小声で相談して答えを導き出す活動を取り入れています。我先に答えようとする子どもが、隣のグループに聞こえないようにひそひそ話をして考える姿は微笑ましいです。

子どもたちのドキッとした解答を紹介します。

クイズ①

「空を飛んでいる魚はなに？」 答え：鯉のぼり

子どもたちの答え：鯉のぼり（多数） いわし雲 トビウオ



クイズ②

「夜になると出てきて、やせたり、ふとったりするものはなに？」 答え：月

子どもたちの答え：お月さん（多数） フクロウ

「月です」と説明した後、ある子どもがぼそっと「出てこないときがあるよ」



- ・私の想像を超えた子どもたちの自由な発想に驚くとともに、子どもたちに戸惑うようなクイズを出題したことを深く反省した。子どもたちが何を答えるかを明確にするために次のように変えた。

クイズ①→「こどもの日が近づくと、外に飾る空を飛んでいる魚はなに？」

クイズ②→「晴れた夜の空に出てきて、やせたり、太ったりするものはなに？」

- ・朝日新聞の「天声人語」（1980年2月10日）に取り上げられたことから話題になり、誰もが知っている有名な問題があります。

理科の問題 「雪がとけたら何になる？」 答え：水

子どもたちの答え：水（多数） 春



- ・「春」は不正解となり、「水になる」という科学的な正しさを求めるのか、「春になる」という自由な発想を求めるのか、世の中からは様々な意見が飛び交った。また、子どもが混乱しないように「雪が」ではなく、「雪は」を使えば、「春」という解答は出てこないはずという厳しい意見もあった。さあー、みなさんは子どもに何を求めますか。

※原文は「雪」ではなく「氷」。しかし、「雪」の方が「春」と結び付けやすかったから、世間には広まった。



とれたて直送便



「雪がとけたら何になる？」

雪かきのポイントは、腕の力だけで雪を遠くに投げようとせず、スクワットの動きのように、①膝をしっかり曲げて腰を落とす、②雪をすくったら足の力で立ち上がる、③身体ごとひねらず足の向きを変えてから雪を置く。

「雪がとけたら何になる？」→「楽」になる。（早く楽になりたい！）